

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○無回答率が0.0の問題が多く、学習に前向きに取り組む姿勢がうかがえる。 ○「思考力、判断力、表現力等」の「B 書くこと」の正答率が最も高く、書く力が伸びてきている。 ●ひらがなを漢字に書きなおす問題の無回答率、正答率で、県平均、全国平均を大きく下回った。 ●複数の情報を結び付けて考える問題の無回答率、正答率で、県平均、全国平均を大きく下回った。	・漢字の定着、情報の読み取りや複数の情報を結び付けて考える力の育成のために、 ①多様な方法で漢字の反復練習を行う。 ②文章中のキーワードを丸で囲む、文章と図、グラフなどを線で結ぶ、などの情報読解スキルを意図的に授業に取り入れる。 などに取り組む。
算数	○小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉える問題の正答率が、県平均、全国平均を上回った。 ●「A数と計算」において、県平均、全国平均を下回った。特に、分母の異なる分数を加減する問題との正答率が低かった。	・分数の計算の定着を図るために、 ①分数の単元をスモールステップで丁寧に進める。 ②朝学習、家庭学習などで既習事項の確認、定着を図る。 などを行う。
理科	○「地球を柱とする領域」の正答率が最も高く、特に「赤土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件」について、県平均、全国平均を上回った。 ●「生命を柱とする領域」において県平均、全国平均を大きく下回った。特に、「発芽するために必要な条件」について、実験方法を発想し、表現する問題の正答率が低かった。	・適切な実験方法の発想、表現の力を育成するために、 ①実験の準備段階の指導を丁寧にを行う。 ②実験方法やそれが適切である理由を考えたり記述したりする時間を設定する。 などを行う。

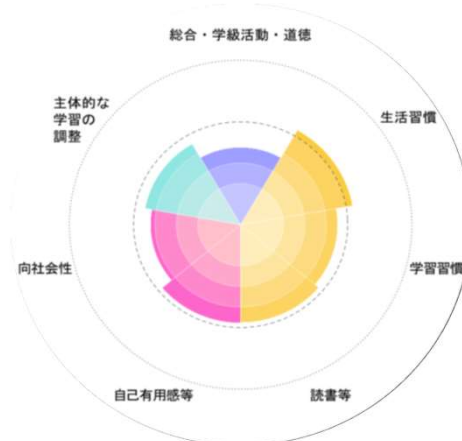
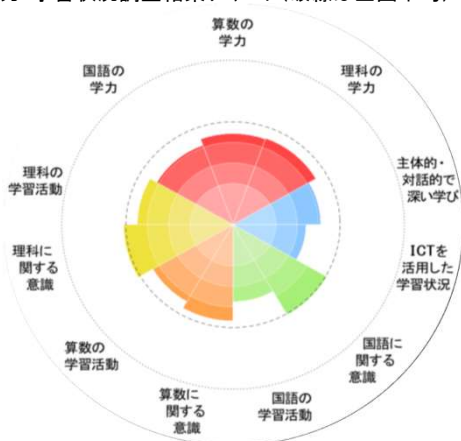
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○自分には良いところがあると思っている児童が多い。 ○地域の大人、行事と関わっている児童が多い。 ●学習において、自分で工夫したりねばり強く取り組んだりできる児童が少ない。 ●学習において、ICTの活用が十分ではないと感じる児童が多い。	・ICTの活用も含めて、児童に課題解決の方法を指導できるよう、教職員のICT研修を年に数回行っている。

(3)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	・粘り強く課題に向かえるよう、授業で多様な学習方法を取り入れたり、家庭学習の課題を工夫したりして、基礎学力の定着を図る。 ・教師が児童の学習に向かう姿勢や伸びなどを認めたり、取組に対する評価や達成状況の確認を意図的に行ったりして、学習意欲を高め成長を実感させていく。 ・調べ学習はもちろん、児童同士の意見交換などにもICTを有効活用して深い学びにつなげていく。
------	--

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

88

名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

